

にっほんのいっほん
こだわりの1/123



『尻縫い』

千葉 靖江

(担当 15年)

求められる長年の経験と感覚

「尻縫い」工程は、ストラックスを穿いた時のお尻部分のフィット感を決める繊細な工程になり、ウエスト寸法も決まってしまう重要な工程でもあります。

縫い込み過ぎず、浅くなり過ぎず縫うには、長年の熟練の技が必要です。この技を持っておられる千葉さんを今回ご紹介します。

穿き心地が決まる 重要な工程

(千葉) 『尻縫い』は、上部の3cmの縫い代から下部の1cmの縫い代になるように、徐々に狭く縫わなければいけません。

カーブを作りながらの縫製は、定規はなく長年の経験と感覚だけが頼りになります。常にお尻のフィット感と合わせて、ウエスト寸法にも目線をおいています

更に柄物については、横柄だけでなく縦柄も左右対象になるように、少しずつ柄を合わせながら縫わないといけません。まさに、ストラックスの穿き心地を決める工程と言っても過言ではありません。

今後も『主人を始め、自分の身内に穿いてもらったんだ。』という気持ちで1本1本エミネントファンの方に向けて、心を込めて縫いたいと思っています。』と仕事への思いを語ってくれました。

2024年エミネントグループの年賀状は、「ミナトマチファクトリー」所属のデザイナー前田泰佑さんにイラスト作成をお願いしました。前田さんよりエミネントストラックスに応援メッセージをいただいています。



前田氏 制作のエミネントストラックスイメージイラスト



就労継続支援B型事業所

MINATOMACHI FACTORY

デザインでみんなと(社会)をつなぎたい。

障がい者の仕事と雇用を創り出すためにオープンしたMINATOMACHI FACTORY(ミナトマチファクトリー)。みなとまち佐世保で、様々なクリエイターやデザイナーとコラボしながら、商品の企画・開発から、デザイン、製造販売までの一貫体制。デザインを媒介として、人と社会がつながる仕組みを構築しています。

前田 泰佑 Maeda Taisuke

長崎生まれ、横浜育ち。武蔵野美術大学卒業後、デザイナーの道に進む。現在はミナトマチファクトリーに所属し、商品デザインを担当している。

『この度はイメージイラストの制作に携わらせていただきありがとうございます。皆さんの丁寧な作業や、一致団結して製品を作られている様子からイメージし制作いたしました。このイラストが皆様のチカラになればと思っております。』